

第7回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 7月3日(水)

テーマ 乳児家庭を訪問し子育てを応援

参加者 河内愛子さん(志戸部)、尾島玲子さん(加茂町成安)、檜本康江さん(南方中)、森里佳子さん(中北上)、池内俊子さん(国分寺)、太田広子さん(林田)

市が行っている「こんにちは赤ちゃん訪問」で活動している「赤ちゃん子育て応援隊」の6人が、市長と意見交換を行いました。

子育ての不安や大変さに共感し応援

参加者からは、昨年から、第2子以降で生後4カ月までの乳児のいる家庭を訪問していることが紹介されました。子育てを経験した隊員が、母親と同じ目線で話すことで、子育ての不安や大変さに共感し合え、信頼感も生まれていることが説明されました。特に、子育てについて話し合える人が身近に少ない市外からの転入家庭から、訪問を大変喜ばれ、やりがいを感じていると話しました。

市長は、乳児家庭への訪問率が、24年度末で99%にまで達したことは、関係者の尽力によるもので、今後とも、気持ちに寄り添った訪問をお願いしたいと感謝の意を表しました。

■乳児家庭への詩の訪問事業

市では、子育て支援と赤ちゃんの健やかな成長を応援するために、生後4カ月までの乳児がいる家庭を訪問しています。

訪問には、保健師と助産師による「新生児訪問」、愛育委員による「おめでとう訪問」、保育士・幼稚園教諭・看護師などの資格を持つ人による「こんにちは赤ちゃん訪問」があります。

子どもや親が交流できる場が大切

参加者からは、津山すこやか・こどもセンターに開設されている親子ひろば「すくすく」のような、親子で一緒に遊べ、親同士が子育てについて語り合える機会が身近で増えれば、母親の負担が少なくなるとの意見が出されました。

市は、今年度から始まった「はっぴー子育て教室」、育児相談や児童館・子育て支援センターの取り組み、社会福祉協議会が行っている「すくすく久米」「すくすく勝北」などについて紹介しました。

市長は、これまで以上に多くの人が参加でき、親子で楽しい時間を過ごすとともに、親同士の交流を深められる場としていきたいと話しました。

